

令和6年度版『小学算数』 「年間指導計画案 ー評価規準の参考事例ー」の構成

1. 本資料は、令和6年度版『小学算数』の年間指導計画を作成するための参考資料としてまとめたものです。各地域・学校の実態にあわせてご活用いただければ幸いです。
2. 算数科の年間指導時数は、1年136時間、2～6年175時間が標準授業時数とされていますが、本資料の年間指導計画案では、各学年6～18時間の予備時間を設け、学校・学級の実態に応じて多少の時数調整ができるようにしています。
3. 「年間指導計画（略案）」は、1年間を見通した指導計画が立てられるように、学年ごとに「指導時期」「単元名（教科書該当ページ）」「指導時数」「指導内容（用語・記号）」「領域」を示しています。
なお、「領域」の記号は、A…数と計算、B…図形、C…（1～3年）測定（4～6年）変化と関係、D…データの活用を表しています。
また、「月」に示した時数は、年間を35週（1年は34週）として、週時数を5時間（1年は4時間）と定め、各月に配当したものです。月ごとの目安であり、学校行事など各学校の状況にあわせて、適宜見直していただければ幸いです。
4. 「年間指導計画（詳細案）」は、令和2年3月に国立教育政策研究所から公表された『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料（小学校算数編）』の第3編に示された「指導と評価の計画」の書式を参考にしています。各学年の単元配列にしたがって「単元名（教科書該当ページ）」「指導時期」「指導時数」「単元の目標」「単元の評価規準」を示した後、分節ごとに、各時間の「区切り」「目標」「学習活動」「おもな評価規準・方法」を示しています。
5. 「単元の評価規準」は、上記の参考資料に示された「具体的な内容のまとめりごとの評価規準（例）」をもとに単元ごとに設定し、おおむね満足できる子どもの学習状況を表しています。
6. 各時間の「評価規準」は、3つの観点のうち、その時間で中心になるものにしぼって示し、各時間における評価の重点が明らかになるようにしています。なお、中心になる観点は、以下のように示しました。観点のあとに付した①、②、…などの丸付数字は、「単元の評価規準」の各観点で示された①、②、…などと対応しています。
知……知識・技能
思……思考・判断・表現
態……主体的に学習に取り組む態度
7. 各時間の「評価方法」は、1時間の授業の中で、評価のための資料をどんな方法で収集すればよいのかを示しています。
(例) 観察……机間指導等を通じてとらえた児童の活動の様子
発言……話し合いや発表のときの児童の発言
ノート…ノート（ワークシート）の記述内容